

第 1 号議案 令和3年度事業活動報告に関する件

令和3年度事業活動報告

1 活動の成果と課題

令和2年度から流行した新型コロナウイルス感染症は今年度も猛威を振るい、私たちの日常生活に多大な影響を及ぼし続けている。この1年間に北海道で出された緊急事態宣言は2回計71日間。まん延防止等重点措置は4回計105日間で、一年の約半分を行動自粛期間として過ごしたことになる。法人活動も多方面で制限されたが、障がい者及びご家族の生活を維持するという使命から、障がい者支援事業の運営継続に努めてきた。

今年度も法人職員にコロナ感染が発生したが利用者への拡大なく最小限の影響にとどめることができた。また、職員が安心して仕事ができるようコロナ関連の休業・休暇での賃金保証に取り組み、事業所運営の安定化が行えたといえる。

10月の監査実地指導により、災害対策や事故防止マニュアル及び利用者への説明の不備が指摘され改善につながったことは成果であった。

職員の賃金アップを目的とした国からの交付金・補助金を活用し3年ぶりの賃上げを行うことができた。利用者の利用数により収入が変動するため、よりよい支援を行い安定利用につなげることが課題である。

2 事業

- (1) 障がい者就労支援事業所ワークショップようてい の運営 【個別事業報告1】参照
- (2) グループホームよろこび の運営 【個別事業報告2】参照
- (3) K.S.C Juntos の運営 【個別事業報告3】参照

3 活動

- (1) 精神疾患や障害に関する理解と交流、広報活動

＜講演会・研修会・交流活動＞

◎みんなで学ぼうシリーズ…コロナ感染状況を確認しつつ、再開を検討する

再開時は、毎月第2水曜日の開催固定化し、倶知安厚生病院への協力依頼をおこない、協力開催とする

実施内容とその結果	・コロナウィルス感染が終息せず、再開を検討することができなかった。
-----------	-----------------------------------

◎地域の支援者のスキルアップ企画として「たね塾」を開講する

月1回（5月～11月）、全7回の予定

今年度も募集定員は10名と縮小する

実施内容とその結果	・5月～11月、全7回開催した ・定員を10名とし、換気等感染予防対策を実施した ・参加者は平均7名であった
-----------	--

◎地域の支援者向けのWRAP「くらっぴ」は、会場変更を視野に入れ開催を検討する
開催時は、偶数月第4水曜日を継続する。

実施内容とその結果	WRAPの特徴である飲み物やお菓子をつまみながらのスタイルは、コロナ禍では感染予防の観点から難しく、開催検討には至らなかった
-----------	--

<広報活動>

活動項目	計画	実施内容とその結果
通信ともに発行	障がい者情報の発信と法人活動の現状を伝えるため、定期的な発行を目指す	新型コロナウイルスの影響及び担当者の育児休業により2回の発行であった
インターネット媒体の充実	・ホームページ、ブログなどの随時更新に努める	・ブログ、ホームページは不定期に更新した

(2) 地域内外の福祉関係団体と連携する活動

団体名	形態	活動内容
羊蹄山ろく地域自立支援協議会	参加	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業担当者会議 毎月オンライン出席 ・就労支援部会 毎月オンライン出席 ・知ってる会? 毎月オンライン出席 ・地域活動支援センター「夢の匠」サポート部会 6回出席 6回欠席 ・障がい者地域包括ケアシステム検討会
羊蹄山麓障害支援区分認定審査会	推薦	6回書面開催参加
後志圏地域生活移行支援協議会	委嘱	2回出席。
後志保健医療福祉圏域連携推進会議	委嘱	2回出席
倶知安町障害者施策推進協議会	推薦	1回書面開催参加
一般社団法人北海道精神保健福祉士協会	理事	北海道地区年4回理事会：オンライン出席 後志ブロック例会 毎月オンライン出席
一般社団法人北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部	部会役員	部会役員会開催なし。地区会オンライン出席1回 山麓地区会研修会欠席

(3) 講師派遣活動・実習受け入れ活動

<方針>法人理念に照らし検討のうえ積極的に協力する。

派遣先・委託契約団体	月日	派遣場所および内容
特定非営利活動法人きなはれ	6月24日 9月9日 2月3日	サービス管理責任者更新研修 オンライン サービス管理責任者更新研修 オンライン サービス管理責任者更新研修 オンライン
北星学園大学	中止	精神保健福祉援助実習 中止
北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科	3月3日 ~23日	精神保健福祉ソーシャルワーク実習1人：WS・GH
一般社団法人北海道精神保健福祉士協会	5月29日	一般社団法人北海道精神保健福祉士協会全道大会 実行委員長
公益社団法人日本精神保健福祉士協会	9月9~11日	公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会北海道大会 分科会ファシリテータ

(4) 組織の運営安定化、拡充活動

＜方針＞法人活動に賛同していただける会員・寄付者を増員させる活動を進める。

活動項目	計画	実施内容とその結果 注（前年比）
会員	正会員 20 人以上 賛助会員団体・個人合わせ 80 人以上	正会員 23 人（+3） 賛助会員団体 2（-4） 個人 43 人（-32）
寄付金	目標人数のべ 20 人	のべ 12 人（-4） 245,000 円（-371,000）

＜考察＞

①賛助会員数が目標を達成することができず前年比でも 32 人（4割）減となった。

賛助会費納入者を賛助会員数としており、通信発行時に賛助会費未納者へ継続のお願い文書を送付してきた。通信担当者が 5 カ月間の育児休業でマンパワー不足により通信発行ができなかった。法人活動に賛同していただける {見える広報活動} に通信が大きな役割を果たしていることを実感した。マンパワー不足対策が課題である。

②寄付金も目標を達成することが出来なかった原因は①によるところが大きい。

また前年はコロナ対策支援金が国民に一人 5 万円支給された際に、法人活動への寄付金を多くいただいていた。

(5) 助成金・補助金等活用

＜方針＞利用者の作業活動等向上および業務改善を目的とした助成金活用

助成・補助団体名	金額	助成内容
北海道労働局	300,000 円	特定求職者雇用助成金
北海道労働局	332,500 円	両立支援等助成金
倶知安町	24,000 円	感染予防対策備品購入補助金
北海道	21,000 円	感染防止対策支援事業支援金
公益社団法人前川報恩会	不採用（890,000 円）	福祉助成（除雪機）
北海道共同募金会	申請中（790,000 円）	赤い羽根共同募金（除雪機）

(6) 認定NPO法人活動

＜方針＞寄付額に目標を定め、税金還付の利点を活かして寄付金獲得に努める

活動項目	計画	実施内容とその結果
寄付金獲得	具体的な計画なし	目標を定めることができなかった
寄付者への税金還付通知	1 月中に発行	寄付金受領証明書の発行 個人 6 人（-6）

(7) 「わっくわく」地域開放の取組み

＜方針＞来年度以降の実行に向け、検討を重ね整備を進める。

実施内容とその結果	コロナ感染対策のため取組を保留した
-----------	-------------------

(8) 借入金返済について

＜方針＞法人の黒字化をめざし計画どおりの返済を行う

活動項目	区分	実施内容とその結果
長期借入金	役員・個人	3件契約通りに返済実施できた。
	金融機関	1件返済完了。1件契約通りに返済実施できた。

(9) 職員の働く意欲向上の取り組みについて

活動項目	計画	実施内容とその結果
キャリアパス制度の研修制度および評価制度を再構築し、制度の充実を図る	研修制度	計画に基づき毎月実施できた
	評価制度	再構築できなかった
	職位昇格	WS・GHの主任選任ができた
福利厚生を予算化し、働く環境の整備をめざす	休業・休暇・自宅待機の運用	コロナ感染対策休業の10割保証及び制度研修会実施で職員の意識向上ができた
職員が「自分もここを利用したい」と思えるような各事業をすすめる	職員研修・職員会議の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修は実施できた。 ・職員会議はWSができたがGHはできなかった。 ・離職者がいない年度になった。

(10) 防災対策について

活動項目	計画	実施内容とその結果
新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底する	国・道の方針の周知	朝礼で職員に周知した
	法人マニュアルの整備と周知	法人職員向け・WS利用者ご家族向けに作成し配布したがGHは作成中である。
	日常の感染対策を徹底	毎日の消毒・マスクチェックを実施 マスク、手洗い、三密避ける行動などわかりやすいポスターを工夫し利用者への周知徹底に努めた。
	感染時の対応	保健所と連携し利用者職員の検査や関係機関への報告など迅速に対応できた
防災対策	火災訓練を年1回以上実施	専門業者の協力で1回実施した。
	事業所単位の防災教育実施	コロナ感染対応で実施できなかった。
地震、洪水を想定した防災訓練	事業所単位で年1回以上実施	WS・GHで各1回実施した。

【個別事業報告 1】

令和3年度

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい（WS） 事業活動報告

1 活動内容と結果

(1) 基本方針

◎事業所の体力に合った事業計画にのっとり、充実した支援を図る

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染対策を優先し密になる取組は自粛した。 ・各部中心のレクを企画実施し利用者の交流願望実現に向け取り組んだ。今できることの取り組みを考え実行したことは、不十分ながら評価できると考える。
-----------	---

◎各職員の役割を明確にし、責任とやりがいを持つことができる事業所を目指す

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の職員ミーティングと不定期ではあるが職員会議の中で、事業所全体の動きや課題を確認し合い対策を共有できた。 ・各職員個々の役割の明確化はできていない。
-----------	--

(2) 就労移行支援のサービス提供について

◎積極的な一般就労を目指す支援をおこない、今年度も就職へ向けた支援をおこなう

実施内容とその結果	<p>コロナ感染対策を取りながら企業や利用者・ご家族との面談や連絡調整を行い2人就職した。</p>
-----------	---

◎実践的なトレーニングプログラムを継続する

実施内容とその結果	<p>就職活動に向けたトレーニングプログラムを継続し毎月実施した。3密を避けるため同じ内容で月3回行ったが、利用者の参加状況で中止した会もあった。前年度と同様「社会的マナー」や「仕事をする目的」など基礎的な内容を中心に行なった。就職面接に向けた履歴書の作成指導やハローワークへの同行は、前年度よりわずかに増えてきた。</p>
-----------	--

(3) 就労継続支援B型のサービス提供について

◎他機関に働きかけ、新規継続支援B型利用者の増加を図る

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、前年度の活動により新規利用者が増加した。 ・継続B型の定員数に達したことで、新規の受け入れが難しくなってきた。 ・他機関からの見学実習の問い合わせには可能な限り対応した。
-----------	---

◎利用者の目標工賃平均月額1万円以上、平均時給額300円以上を維持する

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でカフェの営業自粛や委託先からの注文激減が売上に影響した。反面農業部のネット販売が好調を維持し、前年度の委託請負作業に加え新規契約が増えたことで前年度水準に売上げは戻った。 ・目標平均工賃1万円及び平均時給額300円を維持することができた。
-----------	--

(4) 事業運営の安定化に向けて

◎利用者数の維持および利用日数の増加をめざす

実施内容と	・利用者への丁寧な支援を行うことで利用者数は維持できた。
その結果	・休日の勉強会やイベントは染対策を行い実施できた。

◎事務局と連携し、事業の広報活動をすすめる

実施内容とその結果	法人の通信発行が2回にとどまり事業の広報活動はできなかった。
-----------	--------------------------------

(5) 非常災害・防災対策について

◎コロナウイルス感染症もひとつの「災害」としてとらえ、ふだんからの対策とともに、感染者が出た際の対応についてマニュアル化する

実施内容と	マニュアルを職員向け・WS利用者ご家族向けに作成し配布した。
その結果	⇒症状があるときは自宅療養し休む、ということが徹底されてきており、家族内感染があっても拡大を防ぎ影響を最小限にすることができた。

◎地震および洪水を想定した防災訓練、住居ごとの火災訓練を各1回ずつ実施する

実施内容と	・火災訓練はGH合同で専門業者の協力で1回おこなった。(消防署協力なし)
その結果	・防災訓練は実施できなかった

◎防災設備の操作を周知徹底する

実施内容とその結果	・専門業者立ち合い訓練 令和3年9月7日実施した。
-----------	---------------------------

(6) 職員の資質向上について

◎年間計画に沿って研修をおこない、支援技術の研鑽につとめる

実施内容と	・年間計画を立て事業所別に毎月研修を実施した。
その結果	・新採用職員3か月フォロー研修を実施し新人の職場定着に有効であった。

(7) その他

◎就労定着支援事業化のための具体的計画を立てる

実施内容とその結果	就労定着支援事業化には課題が多く取り組まなかった。
-----------	---------------------------

2 令和3年度利用実績(カッコ内は前年度比)

	就労移行支援	就労継続支援B型
年度開所日数	253日(+15日)	256日(+18日)
のべ利用者数	724人(-325人)	3608人(-99人)
一日平均利用者数	2.9人(-1.5人)	14.1人(-1.5人)
3月末時点の利用登録者	2人(-2人)	22人(+2人)
新規登録者	2人(-1人)	3人(+3人)
退所者	4人(2人就職、1人B型へ)	3人(1人移行へ)

3 令和3年度就労支援事業会計決算

収入の部			
科目	合計	前年度比	備考
売上（カフェ）	565,300	-193,610	わっくわくカフェ
売上（調理部その他）	1,240,070	-186,240	WS利用者向け昼食、イベントほか
売上（製造部）	429,015	-284,665	手工芸品売上
売上（農業部）	888,818	112,511	野菜販売売上
施設外作業収入	99,292	64,021	利用者の事業所外作業時の収入
除雪委託料	602,800	56,100	
委託料その他	1,327,796	427,358	調理、清掃、施設管理など
宅配便収入	183,507	-67,984	
補助金・寄付金	0	-310,000	俱知安町飲食店支援金、寄付金
その他収益	2,009	-29,758	受取利息ほか
法人内振替	0	-180,000	
収入計	5,338,607	-412,267	

支出の部			
科目	合計	前年度比	備考
原価材料費	1,234,549	-212,963	手工芸材料、農作物種子など
消耗品費	342,832	-80,938	
研修費・開発費	65,222	35,222	各部商品開発研修、商品開発
設備備品費	3,096	-3,599	作業用テーブル、農具、除雪器具ほか
水光熱費	112,299	-7,701	調理部、カフェ
車両費	135,987	46,013	トラクター、タイヤショベル維持管理
宅配便送料	217,334	-63,881	
手数料	141,658	-31,951	
その他経費	1,440	1,440	各種手数料、宅配便送料など
利用者工賃・賞与	3,221,261	10,131	
支出計	5,475,678	-308,227	

収支差額	137,701
前期繰越正味財産額	975,697
当期正味財産合計	838,626

4 利用者への工賃支払状況について（就労移行支援利用者含めた全員）

◎工賃平均月額…10,290円（前年度比 +1,371円）

◎工賃平均時給額…280.5円（前年度比 +27.6円）

【個別事業報告 2】

令和3年度 グループホームよろこび（GH） 事業活動報告

1 基本方針

◎当事業所の理念のもと、入居者の自立支援を継続する

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none">・個人の意思尊重・意思決定支援は支援計画に基づきおこなってきた。・利用者の気持ちの孤立化を防ぐために声掛けや受診同席を行い確認してきた。しかし、傾聴・共感する支援については不十分であり今後も研修の継続が必要である。・支援の振り返りは、支援計画のモニタリング・アセスメントの際に職員間で情報を共有し定期的におこなった。
-----------	--

◎各職員の役割を見直し、明確にしながら責任とやりがいを持てる職場運営をすすめていく

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none">・役割意識を持って業務にあたっていた。・職員体制は年度末に決めることができた。
-----------	--

2 サービスの提供について

◎定期的に支援会議をおこない、支援の定着を目指す

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none">・支援会議は定着してきた・職場内の勉強会も行われたがスケジュールの調整が課題である
-----------	--

◎関係機関との継続した情報共有が支援活動に反映できるようにする

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none">・感染防止対策をおこないながら定期的な会議に参加できた。・会議参加の範囲は広がらなかった（協議会参加など）
-----------	--

3 事業運営の安定化について

◎法人事務局と連携し、人事・広報・会計における体制づくりをすすめる

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none">・体制づくりは特に問題なしと思われる・退去者2名のあとの運営について区分の見直し手続きを始めるのが遅かった。（収入減につながった）
-----------	--

4 非常災害・防災対策について

◎感染症対策については、日常からマニュアルに沿っておこなっていくと同時に、入居者への意識づけを定着させていく

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none">・日常業務内でのマニュアルに沿った支援はおこなえた。・入居者へ訪問時説明し、マナーとしてとらえてもらった。・ワクチン接種・検査の協力を得ることはでき支援した。・衛生材料の確保・使用方法の周知をおこなった。・感染者発生時の具体的なマニュアルは完成せずシュミレーションできなかった。
-----------	---

◎地震および洪水を想定した防災訓練、住居ごとの火災訓練を各 1 回ずつ実施する

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練、火災訓練を各 1 回実施した ・平日実施のため参加できない入居者がいたが説明をおこなった。 ・火災防止は室内禁煙者に数回にわたり面談をおこない所定の場所での禁煙に努力してもらっている。
-----------	--

5 職員の資質向上について

◎感染予防しながら積極的な職場内研修に取り組み支援力の向上をめざす

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防しながら法人の職場内・オンライン研修をおこなえた。 研修内容の発表の場は設けなかったが、受講者の意識改革につながり、日常の支援のなかで表出できたのではないかと評価する。さらに表出ができるような配慮で、他の職員へも研修内容を広めることができたのではないかと考えた。
-----------	---

◎感染予防等確認のうえ、外部事業所の研修を検討する

実施内容とその結果	・オンラインで参加した
-----------	-------------

6 入居者利用料の収支報告および清算について

◎返済方法については個別に承諾を得て実施する

実施内容とその結果	本人（または家族）が希望される方法で 23 人の方に、平成 27 年度から 30 年度分計 4,413,600 円及び令和 2 年度分 1,724,800 円の返済を完了した。
-----------	--

◎「家電製品更新・修繕積立金」の計画的な更新・修繕をおこなう

実施内容とその結果	<ul style="list-style-type: none"> ・利用料規程・利用料会計・利用料積立金制度について利用者に説明（令和 3 年 4 月 1 日から施行）し同意を得た。 ・令和 2 年度修繕積立金 73 万円を使うことはなかった。 ・今年度は修繕積立金 22 万円を振替。利用者返金計 443,270 円を令和 4 年度に返済する。
-----------	--

7 令和 3 年度利用実績（カッコ内は前年度比）

年開所日数	365 日
年のべ利用者数	7,117 人（-292 人）
3 月末時点の利用登録者	20 人（-1 人）
新規登録者	0 人
退居者	1 人

入居者の利用区分 （3 月末現在）	
非該当区分 1	2 人
区分 2	11 人
区分 3	6 人
区分 4	1 人
区分 5	0 人
区分 6	0 人

【個別事業報告 3】

令和3年度 K.S.C. Juntos 事業活動報告

1 活動内容と結果

(1) 基本方針

- ◎登録選手がスポーツを通じて自分の生活を充実できることを目指す
- ◎サポートスタッフの役割を明確にし、活動が持続できるような体制づくりをすすめる
- ◎フットサルはじめスポーツをすることの楽しさ、やりがいを伝える

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・共和町生涯学習センターにて練習（月1回を予定） ・コンディションチェックシートを作成し参加希望者に練習日2週間前から記載 ・サポートスタッフは厚生病院職員中心で行っている
活動結果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、新たな練習会場を確保して練習をすることができた ・コンディションチェックシートを活用することができた ・長期活動ができる体制が作れなかった

(2) 今年度の活動目標について

- ◎コロナウイルス感染症の影響で大会および練習ができない状態であるが、その中でも一人でできる自主練習を各選手ができるよう個別対応をする

活動結果	・感染症の影響が少ない屋外にて自主練習を行った
------	-------------------------

- ◎選手、サポートスタッフを増員するための活動をすすめる

実施結果	・厚生病院退職のためサポートスタッフが減少している 選手は1名増員
------	-----------------------------------

(3) 活動状況

実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大の影響を受け、予定された大会、遠征はすべて中止 ・共和町生涯学習センター利用（4月、11月、12月）
------	---

2 活動内容およびその件数

月日	活動内容	活動場所	参加人数（体験者）
4月17日	フットサル練習	共和町 生涯学習センター	9人（1人）
11月13日	同上	同上	8人（4人）
12月11日	同上	同上	8名（6人）

3 会員数（3月末現在）

当事者会員	8人
サポートスタッフ	4人
チームサポーター	2人
スポンサー会員	4人・団体